

令和7年4月 25 日

松阪市議会議長 中島清晴 様

研修報告書

下記の内容で研修いたしましたので、報告いたします。

日時:	令和7年4月15日(火曜日) 10:00 ~ 12:00
会場:	松阪市役所 議会棟 第3・4委員会室
テーマ:	生成 AI の活用について
講師:	株式会社サンエル 副社長 南治輝氏
参加者:	公明党 奥出かよ子
作成者:	奥出 かよ子
目的:	AI を議員活動において活用できないか、その領域やシーン又その方法を学ぶこと
研修内容:	1. テキスト生成 AI 例: ChatGPT、Claude、Gemini(旧 Bard)など。 用途: メール文や案内文の作成、記事の執筆などに利用されます。ユーザーが指示を与えることで、特定のテーマに基づいた文章を生成します。 2. 画像生成 AI 例: DALL・E、Midjourney、Stable Diffusion など。 用途: ポスター用のイラストや特定のスタイルの風景画を描くことができます。ユーザーが求めるビジュアルを生成するために、詳細な指示を与えることが重要です。 3. 音声生成 AI 例: Voicevox、ElevenLabs、Suno AI など。 用途: ナレーションの読み上げや音楽の作成が可能です。特定の声質やスタイルを指定することで、より個別化された音声を生成します。 4. 動画生成 AI 例: Runway、Pika、Sora(開発中)など。 用途: 特定の雰囲気やテーマに基づいた動画を作成することができますが、まだ開発中の技術が多く、実用化には時間がかかる部分もあります。 5. 業務支援 AI 例: Notion AI、Copilot(Microsoft)、Felo など。 用途: 会議メモや議事録の作成、データの要約、資料作成などを自動化します。業務の効率化に寄与するツールとして注目されています。 生成 AI の特性 生成 AI は、非常に優秀な「秘書」のような存在ですが、以下のような特徴も持っています。 このように、生成 AI は多様な分野での活用が期待されており、正しい使い方を学ぶことで、業務や創造的な作業を大幅に効率化することが可能。 (以上、資料を生成 AI でまとめたものを人為的にチェックした内容)

	<u>現状の AI に対する認識と注意点</u> 人のマネをして、自動で行うしくみ、生成AIは、優秀だけどちょっとズレる新米秘書だと思う、くらいがちょうどいい認識。 ・知識はあるけど、前提をちゃんと理解していない ・空気を読むのは苦手 ・丁寧に指示を出せばすごく力を出せる 注意点)ハルシネーション AI がそれっぽいことを言っとうそをつくこと LLM は自然な会話をするのが目的となっているため、ハルシネーションが発生する。 【対策】 ・重要な情報はそのまま信じない → 下書きだと考えること ・出典があるかを確認する → どこからの情報か教えてと追い質問をしてみる ・正しい使い方を見極めることは難しい場面もある。プロンプトの書き方やハルシネーションへの対応など、学ぶべきものも多く、不安に感じることもあるかもしれないが、新しい技術をうまく使えば、情報整理やアイデアの発想がぐっと効率的になる。 専門的な内容は人の目で確認する → 法律、データなどは特に注意 複数の AI でクロスチェックするのも有効
所感:	生成 AI は大変便利で賢いものだとは改めて認識した。新米の空気の読めない秘書とのこと。丁寧に支持を出せば、知識は豊富なので答えをくれる。しかし、ウソをつく場合がある。(ハルシネーション) また、個人情報も学んでしまうので、要注意とのこと。そのような現状の性質を理解した上で、活用していくことは大変有用である。
現場風景:	研修風景

以上